単元の言語活動３　　［　　年　　組　　番　名前　　］

◆文語定型詩と口語自由詩を読み比べる

課題　文語定型詩と口語自由詩を読み比べ、それぞれの特徴や詩的効果について、話し合ってみよう。

1 文語定型詩である室生犀星「小景異情」（二八六～二八七ページ）を読み、和歌や短歌との違い、また口語自由詩との違いについて、話し合ってみよう。

①この詩は、故郷への思いをうたっている。この教科書掲載の古典詩歌の中から、故郷への思いを詠んだ作品を探し、どのように詠まれているか、確認する。

●選んだ古典詩歌

●気づいたことをメモしよう

②この詩を口語的に書き直してみて、朗読したときのリズムや内容上の印象、また読後感がどのように変わるか、話し合う。

ふるさとは遠きにありて思ふもの
そして悲しくうたふもの
よしや
うらぶれて異土の乞食となるとても
帰るところにあるまじや
ひとり都のゆふぐれに
ふるさとおもひ涙ぐむ
そのこころもて
遠きみやこにかへらばや
遠きみやこにかへらばや

●気づいたことをメモしよう

2 口語自由詩である宮沢賢治「永訣の朝」（二八九～二九二ページ）を読み、口語表現や表記上の工夫がどのような詩的効果を生んでいるか、話し合ってみよう。

①この詩に用いられている平仮名や片仮名、ローマ字などの表記をほかの表記に書き換えた場合、言葉の印象がどう変わるか、確認する。

●気づいたことをメモしよう

②この詩の特徴の一つに方言の使用があるが、詩歌や芸能において方言が用いられた例を探し、その表現効果について考える。

●方言が用いられた例

●表現効果